

研究主題 「特別の教科 道徳における自己マスタリーの育成」

～子供も教師も楽しい授業～

入間市立豊岡小学校

1 研究主題の設定理由

令和元年度、2年度と「特別の教科 道徳」の研究を行い、「Listen&Talk」を合言葉にし、日々の授業を大切に実践に取り組んだ。その結果、道徳アンケートの「あなたにとって道徳の時間とは」という問いに「考えて考えて、意見を出し合いその中から新しい意見を生み出す場」と回答する児童もいた。新しい意見を発見することができる授業を展開していくことが、道徳の授業に前向きな考えをもつ児童が多いことにつながったと考える。

「考え、議論する道徳」を行うためには、ねらいを常に意識して日々の授業を行うことが重要である。子供たちが本当に解決したい疑問に出会い、自分の考えを伝え、友達の考えを聴き、新たな発見ができる授業こそ、子供も教師も楽しい授業である。「学習者準拠・議論に没入・新たな気づき」の3つをキーワードに、子供も教師も楽しい授業を作り、自己マスタリーの育成を目指していく。

2 研究の仮説

- (1) ねらいを明確にし、考えたくなる発問を工夫すれば、自己の考えを深め広げていき、新たな発見をすることができるであろう。
- (2) 普段の生活との関連で興味を抱かせ、自分事として考えたい状況を作れば、話し合いが活発になり、子供も教師も楽しい授業を作ることができるであろう。

3 研究の経過

月	研修の種類	研修の内容
4	①共通理解研修 ②全体研修 ③ブロック研修	○研究の進め方について共通理解 ○今年度の重点の説明 ○指導案検討
5	④全体研修	○道徳だよりの発行
6	⑤全体研修	○第1回部会
7	⑥全体研修 ⑦ブロック研修	○第2回部会 ○指導案検討・授業準備
8	⑧全体研修（小中合同研修会）	○押谷由夫教授による講演会
9	⑨ブロック研修	○授業準備
10	⑩ブロック研修	○第1回道徳授業研究会（中学年）

	⑪ブロック研修	○第2回道徳授業研究会（低学年）
11	⑫ブロック研修	○第3回道徳授業研究会（中学年）
1	⑬ブロック研修 ⑭全体研修	○第4回道徳授業研究会（高学年） ○道徳アンケート集計・分析
2	⑮ブロック研修 ⑯ブロック研修 ⑰全体研修 ⑱全体研修	○第5回道徳授業研究会（低学年） ○第6回道徳授業研究会（高学年） ○成果と課題について検討 ○研究のまとめ、次年度研修計画検討

4 研究の内容

(1) 毎週の「特別の教科 道徳」を大切にした授業実践



彩の国の道徳も活用しながらの
熱心な教材研究



タブレットを活用し、考えを交流
できる時間の十分な確保



児童の気持ちを大切にした切り返し



しっかりと聴き合うことを大切に
した学級経営

(2) 学年やブロック等で授業を見せ合い、研究協議を行うことによる授業力の向上

- 授業者から、振り返りの視点を提示する。
- 振り返りの視点に沿って、参加者全員が発表をする。
- 指導していただいたことを、1授業につき2つ共通の財産にする。



令和元年度にご指導いただいた

1ダースの栄養言

- ① **ゴール**をもって授業に臨むことで方向を見失うことはない。
- ② **説話**では、教師の道徳的価値を語る。授業者も考える一人の仲間。
- ③ 「手を挙げない人もさすよ」発言しないと**議論**にならない。
- ④ 道徳の授業にまちがいはない。だってあなたの**人生が答え**だから。
- ⑤ 授業は、子どもたちの**実態**あってこそ。教材は、活用するもの。
- ⑥ 「〇〇になって」と問うことで自己の生き方について深く考えることができる。
- ⑦ 発問の**軸をずらして**授業を深める。ただし、ねらいの軸は外さない。
- ⑧ 疑問や「これってどういうこと？」**沈黙**の時間が生まれる授業をめざす。
- ⑨ 30人いたら30の答えがある。だから、友達の意見を**真剣に聞く**。
- ⑩ 一番良い意見を出すことが目的ではない。児童に「何を**気づかせたいか**」が大切。
- ⑪ 「主題」からずれないようにするには、**明確な指導感**・児童の把握・児童の反応のイメージ
- ⑫ 「本音を引き出す」ために、教師も腹の底から**本音を語る**。本音で語る教師になる。

(3) 児童・保護者へのアンケートを実施し、分析を行うことによる、授業改善

あなたにとって道徳とは、どんな時間ですか？

○心をどうやって使うか知るため

- 楽しい時間
- 頑張る時間
- 学ぶ時間
- うれしい時間
- 考える時間
- 大切な時間
- 成長する心の時間
- 心の時間
- 心が温まる時間
- ・○を落ち着かせる時間
- 心の勉強
- みんなを温かくする時間
- 思いやり、友情、勇気、静かに、落ち着く
- 本を上手に読むため
- 難しい
- 話を聞いて考える時間
- 読んで書いて楽しい
- 本を読む時間
- お話を聞く時間かな？
- 頭を使って考える時間・頭を使う時間
- 命のこと

一学期特に心に残った道徳は？

- 少し悲しいお話で、女の子が見つけたおばあちゃんがくれるはずの誕生日プレゼントを手渡してはしかなかったから、もらえなかったところが、女の子はおばあちゃんが好きな人だと思ったからです。
- 大好きなおばあちゃんがいきなりいなくなって帰ってきたら自分のことをおわすれているというつらさがあるのに前向きに新しい思い出を作ろうとしているところがすごいと思ったので選びました。
- おばあんのやさしさがとてもあふれていて、おばあちゃんが転んで病院へいったときの、とも子の心配するやさしさもいいなと思いました。最後のとも子がやさしく車いすをおしている姿が心に残ったからです。
- 途中泣きそうになってとても感動したから
- だんだん記憶がなくなるけど最後には涙しくなっているからです。
- おばあちゃんは昔にもどったり忘れたりすることがあるけど、とも子は車いすをおしたりがんばってすごいと思ったからです。
- 他の話とはかなくとも「かなしい」と終わるけれど、この話はちやうど半端な感じがして、心に残ったからです。
- とも子さんのことを忘れたのは、とも子さんにとってショックだとぼくは思いました。ですが、とも子さんはおばあちゃんが忘れてしまったことにショックはなく、おばあちゃんと幸せにできていたのです。
- いつかおばあちゃんやおじいちゃんも認知症になってしまうと思ってこの話の主人公の子みたいな横し方をまねしたいと1番思ったから
- もし、このお話の主人公と同じ出来事があったらと考えてしまって悲しい気持ちになったから
- 名前もわすれられたけど、しっかりおばあちゃんを手振っていいと思いました。おばあちゃんがさがしているのを見つけてよとがんばっていたから。
- わたしはおばあちゃんがこんなことになったらすごく悲しいと思いました。でもこんなことになってもおばあちゃんということは変わらないと思います。だからまたあたらしいすこい思い出をつくっていっぱい写真をとって一からやり直します。
- おばあちゃんがどんと物を忘れていくのの中で自分の大事なものをいつか見つけてほしいという主人公の気持ちがいいと思ったから
- もしわたしのおばあちゃんが車いすになってしまったら、とも子みたいに笑顔でいられないと思う。わたしもとも子みたいに振ることができるといいと思いました。
- 自分にとっても身近なことだし、自分のおばあちゃんがあったらか一番考えやすいし、自分の行動と、とも子ちゃんの行動をてらしあわせやすくとても心に残るお話だから。
- 娘や他のひとのことを忘れても自分の思い出のものは覚えていてそれを見たおばあさんとひさが優しすぎて命を落とした所が1番心に残っているから。

(4) 保護者へ、授業の様子を発信する道徳だよりの発行

- 子供たちの学習の様子や発表を、保護者へも発信する。
- 家庭でも、道徳について話題にしてもらう機会を増やす。
- 県独自の道徳教材「彩の国の道徳」の情報も発信する。

(5) 部会（教育調査部・環境整備部）による活動



教室の道徳コーナーの充実



道徳掲示板の充実（教員の座右の銘など定期的に更新していく。）

5 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

- 「規律ある態度」達成目標アンケートでは、前期（5月）と後期（12月）を比較すると、やさしい言葉づかい「95.1%→96.9%」話を聞き発表する「86.9%→92.0%」集団の場での態度「92.7%→93.5%」などの項目で向上が見られた。
- 児童同士で思いを伝え合う様子がより多く見られるようになり、学校初のZoom 児童朝会を自分たちで計画・運営を行った。振り返りでは、児童同士で喜び合う姿が見られ、道徳教育が特別活動の充実にも繋がった。



体育朝会での話を聞く態度



特別活動の充実

(2) 今後の課題

- 別葉の作成に力を入れ、別葉を活用し、全教科・全ての教育活動で道徳教育を推進していけるようにする。
- 学校における道徳教育を、より家庭や地域に発信し、学校・家庭・地域が一体となって道徳教育に取り組んでいけるようにする。